

あさのこうさてん

「いってきます。」

「気をつけて、こくどうをわたるのよ。」

おかあさんのこえをききながら、ゆうやはバスにのりました。小学校に入学してから、ずっとバスで学校にかよっているのです。

バスからおりると、こくどう一八五ごうせんをわたって、学校へあるいていきます。このこうさてんにはいつも、校ちよう先生と、ちかくにすんでいるおばさんが立っています。

「おはようございます。」

ゆうやはいさつをして、しんごうが青になるのをまちました。あさのこうさてんは車がたくさんはしっています。

やつと青になったのを見たゆうやは、おうだんほどうをわたろうとしました。そのとき、

「あぶない。」

というこえがきこえ、校ちよう先生にうでをつかまれて、うしろにひっぱられました。そして、すぐ目のまえを、トラックが、すごいスピードでとおりすぎていきました。

むねがどきどきして、こえも出ませんでした。



「だいじょうぶ。」

おばさんが、かけよってきました。

「あぶなかった。青になっても、車がとまったのをたしかめてからわたらないといけないよ。」

と、校ちよう先生もいいました。

その日、いえにかえってから、おかあさんにあさのことをはなしました。

「むかし、あのこうさてんでじこがあったそうよ。それからまい日校ちよう先生がこうさてんに立って、みんなを見てくださるようになったの。雨の日もあつい日もさむい日もね。こんどから車がとまったのをちゃんとたしかめてから、わたるようにするのよ。」

おかあさんのはなしをきいて、校ちよう先生やおばさんが、どうしてまいあさこうさてんに立っているのか、わかったような気がしました。

つぎの日、ゆうやは校ちよう先生とおばさんに、いつもより大きなこえであいさつをしました。

